

投資のミカタ — プロの見方を、あなたの味方に。

今こそ注目！医療関連株式 ～テクノロジーだけじゃない！？～

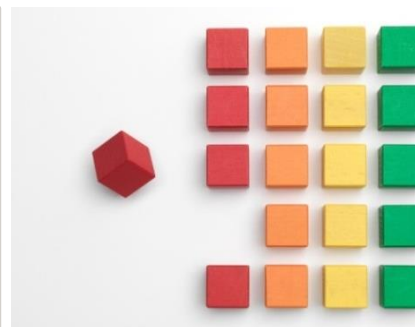
味
見方

投資のミカタ Vol.98 | 2017年9月8日

株式

今回のミカタ

- 2017年、医療関連株式が良好なパフォーマンスを見せています。
- 医療関連株式は足元で徐々に資金流入傾向に転じつつあり、再び注目を集めています。
- 今回は、医療関連株式の足元の状況と今後の見通しについて説明します。



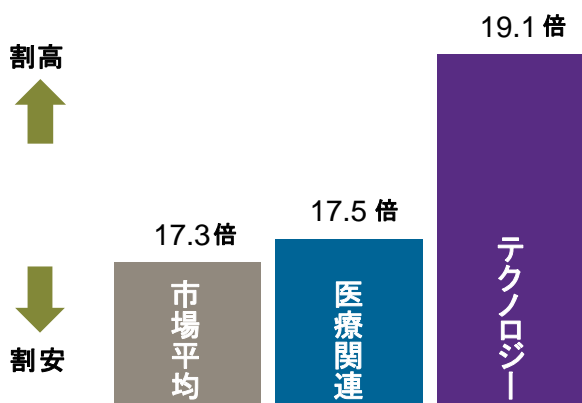
2017年、医療関連株式のパフォーマンスは好調

昨年は不調に終わった医療関連株式ですが、今年は一転、情報技術関連株式に次ぐ2番目に高いパフォーマンスとなっています*1。米国大統領選挙があった昨年は、政治の不透明感などから低迷し、医療関連株式は軟調に推移しました。そのため、米国の医療関連株式の投資信託からは資金が流出しました。しかし、足元では年初来の好調なパフォーマンスを背景に徐々に資金流入に転じつつあります*2。

株価水準は依然として割安

昨年株価が下落した結果、年初株価はかなり割安な状態からスタートすることになりました。そのため、ある程度上昇したとはいえ、現時点においても、医療関連株式は過去の株価水準を依然として大きく下回っています。医療関連株式は、自己資本利益率(ROE)が高く、借入依存度が低い、利益成長率が安定して伸びている企業が多く、高くオリティセクターと言われていています。同じ高くオリティセクターとして、よくテクノロジー関連株式と比較されますが、テクノロジー関連株式に比べて、医療関連株式の割安度が際立っていると見ています。

株価の割安度をはかる物差しである予想PER*3
(2017年6月末時点)



堅調な業績見通し

医療関連企業の業績見通しは堅調です。市場予想によれば、医療関連企業は2017年以降も安定した増益基調が続くと見られています*4。「株価は企業業績を映す鏡」と言われるように、一般的に企業業績が良くなると株価は値上がりし、企業業績が悪くなると株価は値下がりする傾向にあります。つまり、医療関連企業の業績が拡大すると予想されることは、今後株価の下支え材料になると期待されます。

医療関連市場の成長傾向は続く

昨年は不安定な相場展開に苦戦したものの、医療関連株式の中長期での構造的な成長ストーリーに変化はありません。先進国では高齢化の進展に伴い、医療支出の安定的な増加が見込まれています。一方新興国では、昨今の経済発展により食生活の欧米化が進み、生活習慣病など新たな医療需要が高まっています。世界では7000を超える新薬の開発が進んでいると言われ、先進国及び新興国における各々の構造的な変化を捉えた投資の魅力は依然として高いと考えられます。昨年のように、短期的に大きな株価変動が生じることはありますが、中長期的に見れば、今後世界的に医療関連市場はより大きく成長していくと言えるでしょう。

投資のヒント

- 資金フローの動向、過熱感が見られない株価水準、今後も業績の拡大が予想されていることなどを考慮すると、医療関連株式は引き続き中長期的な株価上昇が期待され、魅力的な投資対象であると考えられます。
- 株価が割安な水準にある今だからこそ、医療関連株式をポートフォリオに取り入れる良い機会かもしれません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

「J.P.モルガン Insightsアプリ」のご紹介

経済・金融市場の情報収集に関する
皆さまのお悩みをこのアプリが解決



- Marke Insightsプログラムへのアクセスがより便利に。
- 金融市場や経済の情報が満載で自分好みにカスタマイズも。



JPモルガン

検索

www.jpmorganasset.co.jp/Insights_App.html

AppleとiPadは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidおよびGoogle Playは、Google Inc.の登録商標です。

- *1 出所:ブルームバーグ 先進国株式市場の2016年のセクター別騰落率(2017年6月末時点、現地通貨ベース)を比較。各セクターはMSCIワールド・インデックスの各セクターのインデックス(MSCI11分類に基づく)を使用。いずれも配当込み。
- *2 出所:ブルームバーグ 2017年6月末時点。ブルームバーグにて米国で販売されている医療関連株式ファンドの2017年6月末時点の純資産総額上位10ファンドを抽出し、純資産総額および基準価額等から純流出入額を推計。
- *3 株価収益率。出所:ブルームバーグ、市場平均:MSCIワールド・インデックス、医療関連企業:MSCIワールド・ヘルスケア、テクノロジー企業:MSCIワールド情報技術、2017年6月末現在。
- *4 出所:ブルームバーグ、期間:2017年~2019年、米ドルベース、ブルームバーグ集計のコンセンサス予想。

MSCIの各インデックスは、MSCI Inc.が発表しております。インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しております。

【ご留意事項】お客様の投資判断において重要な情報ですので必ずお読みください。
投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、財務状況等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

ご注意していただきたい事項について(詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、購入、換金の申込の受付を行わない場合があります。投資信託によっては、クローズド期間として、原則として換金が行えない期間が設けられていることや、1回の換金(解約)金額に制限が設けられている場合があります。分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

ファンドの諸費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
・投資信託の購入時:購入時手数料(上限3.78%(税抜3.5%))、信託財産留保額
・投資信託の換金時:換金(解約)手数料、信託財産留保額(上限0.5%)
・投資信託の保有時:運用管理費用(信託報酬)(上限年率2.052%(税抜1.9%))
費用の利率につきましては、JPモルガン・アセット・マネジメント(株)が設定・運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の利率を記載しています。その他、有価証券の取引等にかかる費用、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税等の実費(または一部みなし額)および監査費用のみなし額がかかります(投資先ファンドを含みます)。また、一定の条件のもと目論見書の印刷に要する費用の実費相当額またはみなし額がかかります。

金融商品取引業者について

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下、「当社」という。)が作成したものです。本資料は投資に係る参考情報を提供することを目的とし、特定の有価証券の勧誘を目的として作成したものではありません。また、当社が特定の有価証券の販売会社として直接説明するために作成したものではありません。当社は信頼性が高いとみなす情報等に基づいて本資料を作成しておりますが、当該情報が正確であることを保証するものではなく、当社は、本資料に記載された情報を使用することによりお客様が投資運用を行った結果被った損害を補償いたしません。本資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社および当社グループの判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、当該意見・見通しの実現を保証するものではありません。また、当該意見・見通しは将来予告なしに変更されることがあります。なお、投資信託は預金および保険ではありません。投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

一関連レポートのご紹介一

Quarterly Perspectives | 3Q 2017

今四半期のテーマ:

困ったときのインカム。転ばぬ先の分散・円ヘッジ。

- 最初に結論: 低金利依存のリスクオンだが、インカム重視。
- 投資戦略: ドル低金利ならば、インカム・円ヘッジ・クロス円・アジア。
- 根拠: 米国の長期金利はなぜ低位安定するのか。
- 改めて考える: 資産運用はなぜ重要なのか。預金の「一歩先」へ。